

健やかな成長を願って 「内子保育園園歌」が完成

内子保育園（浦上恵津子園長、園児79人）はこのほど、同園の園歌を制作し、2月6日に開かれた「すくすくふれあい会」で披露しました。同園は21年4月から内子町社会福祉協議会に運営が移管されています。これを機に、今までなかった園歌をつくろうと、保護者から詞・曲を公募。中学校で音楽を指導する中島淳子さんの協力を得て完成しました。浦上園長は「ずっと歌い継がれていくことを願っています」と話していました。



大きな声で元気に園歌を歌う年長組の園児たち



新聞紙からエコバッグ作りに挑戦

環境意識を高めよう 内子町環境子ども会議

内子町教育委員会などが主催する「平成21年度内子町環境子ども会議」が2月8日、共生館で開かれ、約250人が参加しました。はじめに、大瀬・立川・天神・小田の各小学校と大瀬中学校が日ごろ取り組んでいる環境活動について発表。その後は、廃食油を使った石けん・ろうそく作り、割りばしからの木質ペレット製造など7つの教室に分かれ、子どもたちは、さまざまな角度から環境について理解を深めていました。

環境に優しい燃料を 木質ペレット利用促進シンポジウム

財日本住宅・木材技術センターが主催する「木質ペレット利用促進シンポジウム」が2月9日、内子座で開かれ、県内外から約70人が参加しました。
(株)森のエネルギー研究所・大場龍夫代表取締役がペレットの安定供給と需要拡大について講演した後、町内の農家や事業者など5人が登壇し意見を発表。コーディネーターを務めた林和男愛媛大学教授が「民間と協働し地域資源をうまく使ってほしい」とまとめました。



木質ペレットの利用を進めるための課題などを議論



できたての豆腐を手に

育てた大豆で豆腐作り 内子町青年農業者

内子町青年農業者7人は2月12日、自分たちで育てた大豆を使って豆腐作りに挑戦しました。
収穫した大豆は5キ。程内こんにやく芋グループ（大程幸子代表）の皆さんに指導を受けながら、もめん豆腐40丁とざる豆腐を作りました。参加者は「大豆の収量が予想よりも少なかったので心配していたけれど、本当においしい豆腐ができてよかった」とうれしそうに話していました。

食を通じて郷土を元気に スローフードを考える研修会

内子町は2月8日、郷土の味を見直し広く発信しようとして、内子フレッシュパークからりて「スローフードを考える研修会」を開きました。講師は文化研究家の向笠千恵子さん。向笠さんは、全国を旅し食の現場を見てきた経験から、「生産者・加工者は、食の職人。こだわりや自慢を消費者に積極的にアピールし、ファンをたくさんつくりましょう」と語りました。参加者は活発に質問しながら、熱心に耳を傾けていました。



農産物の生産や加工、販売に携わる人たちが大勢参加



水の中に種を混ぜておき、動力噴霧機で一気にまいていく

豊作を祈って種まき 内子町葉たばこ育苗センター

内子町葉たばこ生産組合（福山康夫組合長）は2月9日、育苗センター＝五百木＝で種まきを行いました。
同センターでは県内の約7割の苗を育てており、22年度は生産農家151戸分、約6,000枚を育苗。農家数は30年前に比べると約4分の1に減少しています。昨年は雨の影響で不作だったこともあり、順調な生育を願いながら作業が進められていました。約20日後にポットに仮植し、3月下旬ごろ畑に植えられるということです。

自立した地域づくりのために 自治会活動研究大会

「社会変化に対応する自治会活動」をテーマに、内子町自治会連絡会（中川稔徳会長）などが主催する「平成21年度内子町自治会活動研究大会」が2月20日、共生館で開かれました。自治会活動報告では、白杵・大瀬・重松の3自治会が、地域の課題と取り組みなどを発表。その後、NPO法人「ひろしまね」の安藤周治理事長が「地域づくりは後継者を育てることが大切。自立した地域の暮らしを支える体制も必要」と講演しました。



ユーモアを交えながら講演する安藤周治さん



お巡りさんの声に従って、左右をしっかり確認

卒園前に交通ルールを確認 くるみ保育園で交通安全教室

くるみ保育園（高橋幸園長、園児89人）は2月24日、就学を控えた園児たちに交通ルールを身に付けてもらおうと、五十崎ブロック駐在所および内子町交通安全協会の協力を得て交通安全教室を行いました。
園児はビデオを見て横断歩道の正しい渡り方を学習した後、保護者と一緒に横断歩道を渡り、ルールを確認。高橋園長は「教わったことを忘れないで、事故に遭わないように元気に過ごして」と呼びかけていました。